

平成24年(2012)6月1日

編集・発行
書学書道史学会
会報委員会
〒166-8531 東京都杉並区
3-30-22 大学生協学会支援
センター内
TEL(03)5307-1175
FAX(03)5307-1196

理事長再任にあたり

大橋 修一

本学会二期目を拝命し、新たに出発するにあたり、一言、ご挨拶を申し上げます。

昨年三月の東日本大震災という未曾有の天災にみまわれて以降、本学会の企画による「書学書道史論叢」の出版は用紙の調達ができなくなり、一時は出版は無理かも、と思われました。しかし、美術新聞社・萱原氏のご奮闘もあつて無事に上梓することができました。そして、なによりもありがたかったのは、この度の出版に際し、会員のみなさま一人一人の温かいご支援が得られことでした。このように「論叢」が無事上梓できたのも、みなさまのおかげであると、深く感謝申しあげます。ありがとうございます。



また、今回の出版はもとより、二十一年に亘つてこの学会の裏方として、ご苦労された萱原氏とも、二年間契約の業務の移行措置が無事終わりました。今年度からは、事務も「生協」の出版部にお願ひし、新たに船出する運びとなりました。

会員の皆様には、ご迷惑がかからぬよう、万全の体制で臨みますので、さらなるご支援のほどお願い申し上げます。

さて、二期目を迎えるにあたり、みなさんと一致協力して、以下の四点について推進してまいりたいと思っております。

一点目は、以前に申し上げました、開かれた民主的な運営を通して、「みんなが会員なんだ、参加しているんだ」という意識で関与できるような雰囲気や、その方法をさらに推し進めることです。二点目は、電子化を推進することです。これによって本学会、理事会、事務局と会員のみなさんとの間を結ぶ諸媒体（ホームページなど）の充実をはかつて、この学会が会員にとってより親近に感じてもらえるようにすることです。三点目は、一般の書家や書学者、愛好家、また大学院生、助教などの、次世代を担う、若手研究者を多数新入会員として迎え入れることです。そこで、さらなるエネルギーをくみ出し、一層の活性化を計ることです。四点目は、国際交流の推進です。昨年度は、企画はしたもの、三月の放射能の問題もあつて、国外から招聘することがかなわぬ状況にありました。しかし、これからは、積極的に推し進めたいと思います。幸いに今年度、学会において、国外からの招聘が実現しそうであり、さらに国際化にむけてはすみをつけたいと考えています。

以上、この四点ぐらいは、何とか実現可能な、われわれの対処できそうなテーマであり、わずかながらも前に進めたいと思います。書をとりまく状況は、ますます厳しさを増しています。こんな時こそ、危機感をみんなで共有し、いい知恵を出し合い、今後につなげていければと思います。さらなるご協力をお願い申し上げます。

今年度の書学書道史学会大会は、11月17日(土)、18日(日)の両日、別府大学キャンパス(大分県別府市北石垣82)において開催いたします。

詳細は改めて、研究発表のレジюмеとともにプログラムをお知らせしますが、現時点での予定は以下のとおりです。

◇

○理事会：11月17日(土) 午前11時から別府大学キャンパス内にて開催。

○大会：11月17日(土) 午後1時30分から別府大学キャンパス内にて受付開始。午後2時から総会。午後3時から講演会。18日(日) 午前9時30分から研究発表。(今年も研究発表は、すべて同一会場にて開催。)

○会場：両日ともに別府大学キャンパス内開催を予定。

○講演会：11月17日(土)、胡平生氏(簡牘研究者、中国文化遺産研究所研究員)による「簡牘の偽物問題について(仮題)」の講演を予定。

○鑑賞会：11月18日(日)の昼休憩時間に呉越氏(呉昌碩記念館館長)による呉昌碩印(持参・展示・解説)の鑑賞を予定。

○懇親会：11月17日(土) 午後5時30分から、別府大学キャンパス内にて開催予定。

○アクセス：JR日豊本線「別府大学」駅下車、徒歩10分。特急利用の場合はJR日豊本線「別府」駅下車、タクシー



ーで約12分(料金1,200円程度)。なお、大分空港からはバスで「別府国際観光港前」(約40分)下車、タクシーで約5分(料金800円程度)。
○宿泊ホテル：基本的に役員・会員ともに各自で手配下さい。ただし、今後、会場大学との打合せ状況により、会員の便をはかる場合もあります。連絡はHPなどでお知らせいたします。



別府大学キャンパス

今秋の「第23回書学書道史学会大会」は、大分・別府大学キャンパスにおいて前項のとおり開催されます。研究発表会場は今年も従来通り一室制とし、原則として分科会方式はとりません。多くの会員各位の積極的な発表を期待します。奮ってお申し込みください。

記

- ① 発表日時：平成24年11月18日（日）午前～午後
 - ② 発表時間：各30分（発表20分・質疑応答10分）
 - ③ 申込方法：件名を「大会発表申込」として「所属」「氏名」「連絡先」を明記の上、電子メールにて発表内容の「題目とレジュメ（8000字程度の要約）」を添付してください。なお、電子メールの使用が困難な場合、以下の大会運営委員会までお問い合わせください。
 - ④ レジュメ：原則としてワープロ（テキスト形式、ワード形式、一太郎形式など可）で作成し、電子メールに添付してご送信ください。
 - ⑤ 発表申込締切：平成24年7月20日（金）
- Ⅱ 必着Ⅱ

- ⑥ 発表者の決定と連絡：大会での発表者は、大会運営委員会で8月中旬に決定し、個別にご連絡します。
- ⑦ 『大会のしおり』（レジュメを含む）の配布：10月始めに全会員宛に配布します。

※大会での発表者については、学会誌『書学書道史研究』第23号（平成25年秋刊）への論文投稿申込があったものとして扱われます。改めて学会誌への投稿申込をする必要はありません。

※発表者の学会誌論文原稿の締切は、平成25年3月末日です。ただし、原稿の採否は査読委員会で決定されます。なお、学会誌掲載についてのご不明の点は、編集局までお問い合わせください。

（送り先／大会運営委員会）

送信アドレス：yokotata@tomi.ac.jp
〒352-8501 埼玉県新座市中野1-9-6 跡見学園女子大学文学部 横田恭三宛て
☎048-478-3413

平成24年3月3日（土）15時から17時まで、東京・出光美術館において、会員のための特別鑑賞セミナーを実施しました。今回で8回目となる鑑賞会は、同館企画展（古筆手鑑 国宝『見努世友』と『藻塩草』）に合わせて開催したものです。参加者は募集定員いっぱい（25名）がつけかけ、各々鑑賞を堪能した後、同館レクチャールームにて、特別解説を行いました。なお、解説者には高城弘一氏（大東文化大学准教授・常任理事）と水田至摩子氏（畠山記念館学芸課長・会員）の2名が担当し、関連講話及び作品解説を聴くことができました。



出光美術館レクチャールームの様子

「主として学生・若手の会員に発表の場を与え、研究の活性化と研究者の育成を図る」という目的で開催している研究発表会です。

第6回より、発表後に座談会形式で参加者相互が書をめぐる諸問題について意見交換をしてみました。大変好評でしたので、今回も同様な場を設け、活発な意見交換をしたいと考えております。ふるってご参加ください(非会員の来聴可)。

日時：平成24年6月24日(日)

午後1時～5時/12時30分受付開始

会場：日本大学文学部(東京都世田谷区桜上水)3号館3201教室

交通：京王線「下高井戸」駅下車徒歩8分

内容：①若手研究発表 公募による2名の発表
②意見交換会 「若手研究者として感じていること」をめぐる座談会

〈研究発表題目と要旨〉

①趙孟頫の小楷の真偽について

—〈快雪時晴帖〉跋を手がかりに—

筑波大学大学院博士課程2年 陳建志

趙孟頫の小楷書法をめぐることは、古来より評価が多岐にわたったり、褒貶が様々である。先行研究では、趙の小楷の厳選主張しているにもかかわらず、書風変遷を見渡すと、一部分の作品に対しては合

理的な解釈ができない。それは、今になってもなお、真偽が混同しているからである。

本発表はまず、最も複雑である趙六十代の小楷群の真偽について、焦点を当てたい。そのなかで、王羲之(快雪時晴帖)(国立故宫博物院蔵)後の跋文が、元仁宗皇帝の勅令を受け、六十五歳の趙が揮毫されたものであり、彼が最も得意な書で揮毫したと推測できる。よって、本跋には真跡の疑いがなく、趙の小楷書法のなかでの代表作に違いないと言える。

そこで、本跋の書法の面からその特徴を明らかにし、その他の小楷書法、例えば(妙法蓮華経)巻三(台北石頭書屋蔵)、(妙法蓮華経)五(北京首都博物館蔵)、(道德経)(北京故宫博物院蔵)、(重輯尚書集注序言)(南京經典二〇一一春季拍賣会図録)、(洛神賦)(北京故宫博物院蔵)、(漢汲黯伝)(日本永青文庫蔵)、(六体千字文)(北京故宫博物院蔵)七点について、これらの真偽を検討したい。

②藤原定実筆『古今和歌集』仮名序にみる表現の

主体

大東文化大学大学院博士課程1年 野中直之

一音に対し一種と定められている現在の「ひらがな」とは異なり、仮名の興った平安期には、一

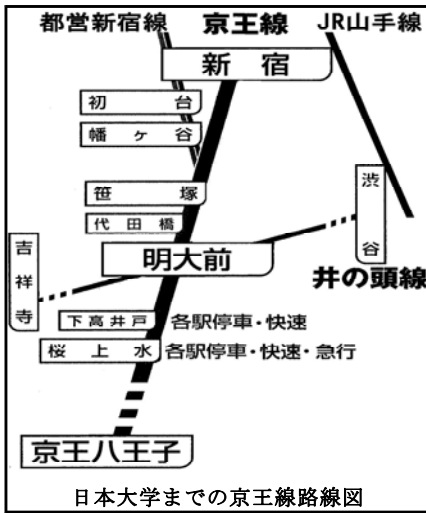
音に対し数種あるいは十数種の漢字(字母)が当てられていた。そのため、その選択には筆者による嗜好性が大きく影響していた。字母使用の嗜好性を調べることの意義について小松茂美氏は、「その使用字母は同時代の人によっても相当の相違があり、個性的な意義をもつものといえる。」とし、「今後の筆跡研究の新しい方向の一つとして、これは見逃しがたいのではあるまいか。」(『古筆学大成』第二九巻)と、その重要性を取り上げている。

しかし、字母を手掛かりにして古筆を見ていくうえでは、

- ・同一人物では字母使用においてどの程度のひらきがあるか
- ・執筆年代によってどのような変化がみられるのか
- ・書写時の原本の影響はどの程度あるのか

など、さまざまな課題を挙げることができる。

そこで、推定筆者が藤原定実とされる古筆の中に、書写内容を『古今和歌集』とするものとして、伝源俊頼筆「元永本古今和歌集」、同「卷子本古今和歌集」、伝藤原佐理筆「筋切・通切」があることに注目したい。「元永本古今和歌集」は完全で、「卷子本古今和歌集」、「筋切・通切」は部分的に伝存するものの、これら三本は、いずれも仮

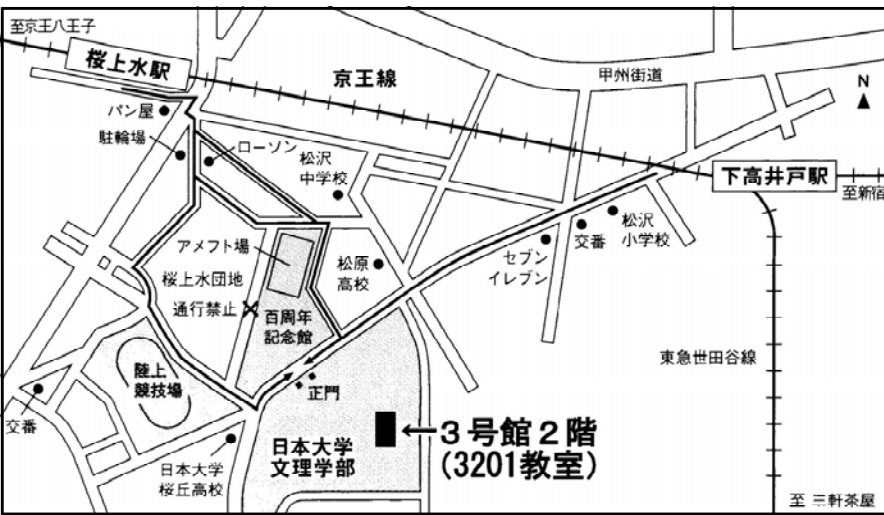


普段から若手研究者が感じている諸問題について、以下の2名にオープンスピーチをしていただき、その後、参加者全員による自由討論形式で座談会を行います。

日本書学フイールド・金子馨（かねこ かおる・日本大学文理学部助手・中世書論史）
中国書学フイールド・鍋倉翔織（なべくら かおり・大東文化大学院・銭泳の研究）

〈意見交換会〉

名序が現存する。それぞれを比較することにより、書写時における影響や書写年代による字母使用の変化などを確認することができることと思われる。このことから、それぞれの字母の使用状況や漢字の使用状況の相違点、本文の異同等を挙げ、前述の課題についての考察を行うものである。



○会場へのアクセスは新宿駅から京王線「下高井戸」駅（10分・各駅停車のみ）下車、あるいは「桜上水」駅（12分・各駅停車と急行）下車。また都営新宿線から「笹塚」駅で乗換（急行は「桜上水」駅まで直通）し、「下高井戸」駅・「桜上水」駅で下車。日本大学へは、両駅から徒歩8分ほどで着きます。



報告「J-STAGE」について(學術局)

昨年12月の会報22号でお知らせした通り、今春、文科省所管の独立行政法人科学技術振興機構（JST）運営のJ-STAGE（ジエイ・ステージ）に学会誌『書学書道史研究』19号・20号が掲載され、18号まで収められていたジャーナルアーカイブも、J-STAGEに統合されました。9月末には21号を公開する準備を進めていますが、以後は学会誌刊行から1年後に順次公開する予定です。

J-STAGEには、18号までの論文・研究ノートに加え、それらの抄録（サマリー）と書評も含めることになりましたが、会員研究動向なども掲載されている冊子体が基本であることには変わりありません。今後は双方をこ活用ください。

平成23年度 科研費本会関係者採択一覽 (事務局)

本会会員の採択課題に限ったが、会員が分担研究者で、代表者が非会員である場合には、※を付して代表者を末尾に付記した。複数の会員が関わる同課題については、当該課題のもとに代表者と分担研究者(会員)とを併記した。なお、所属後の数字は、平成23年度のみ補助金の額。

基盤研究(S) 継続(平成22) 美術に即した文化的・国家的自己同一性の追求・形成の研究 板倉聖哲(東京大学) ※代表・小川裕充(東京大学) 1,300千円

基盤研究(A) 継続(平成22) 出土資料群のデータベース化とそれを用いた中国古史上の基層社会に関する多面的分析 鶴田一雄(新潟大学) ※代表・関尾史郎(新潟大学) 3,500千円

基盤研究(B) 継続(平成22) アメリカ收藏「書跡」の基礎データ収集と整理のための調査研究 代表・河内利治(大東文化大学) 分担・安達直哉(大東文化大学) 2,000千円

基盤研究(B) 継続(平成22) 中国道教における山岳信仰と宗教施設のネットワークに関する総合的調査と研究 土屋昌明(専修大学) 4,290千円

基盤研究(B) 継続(平成22) 六朝隋唐時代をめぐる仏教社会基層構造の解明と仏教石刻資料データベースの構築 気賀沢保規(明治大学) 5,800千円

基盤研究(B) 新規 学習基盤の形成を促進する書字力育成プログラムの開発 鈴木慶子(長崎大学) 1,500千円

基盤研究(C) 継続(平成20) 戦国簡牘文字の地域差に関する基礎的研究 福田哲之(島根大学) 700千円

基盤研究(C) 継続(平成21) 小学校教員に必要な「古典力」育成のための教育プログラム開発 青山浩之(横浜国立大学) ※代表・三宅晶子(横浜国立大学) 1,820千円

基盤研究(C) 継続(平成21) 日本の篆刻に関する基礎的研究 神野雄二(熊本大学) 700千円

基盤研究(C) 継続(平成22) 中国書画の表装に関する基礎的研究 富田淳(東京国立博物館) 1,040千円

基盤研究(C) 継続(平成22) 周日校刊『三国志通俗演義』についての研究 中川論(大東文化大学) 600千円

基盤研究(C) 継続(平成22) 中国南北朝時代の墓誌銘と造像記の接点―妻子・門弟の文末記録から閻閻を追

う―東賢司(愛媛大学) 1,500千円

基盤研究(C) 継続(平成22) 中学校国語科書写における書字過程に着目した行書教材及び授業開発 樋口咲子(千葉大学) 1,040千円

基盤研究(C) 新規 日本中世期における易学の変容と発展に関する研究 近藤浩之(北海道大学) 1,950千円

基盤研究(C) 新規 中国北朝墓誌における特定刻法の伝播に関する基礎的研究 澤田雅弘(大東文化大学) 1,170千円

基盤研究(C) 新規 中世書論に基づく日本書道史の再構築 永由徳夫(群馬大学) 1,600千円

基盤研究(C) 新規 本阿弥光悦筆和歌巻の特徴解明と伝光悦筆和歌巻の真贋鑑定法の確立 森岡隆(筑波大学) 900千円

挑戦的萌芽研究 継続(平成22) 「言語力」育成に機能する書字教育カリキュラムの開発 青山浩之(横浜国立大学) 200千円

挑戦的萌芽研究 継続(平成22) 中国碑帖拓本の文献学的研究―図書館と美術館をつなぐ― 菅野智明(筑波大学) 910千円

若手研究(B) 継続(平成22) 中国清代における法帖刊行の歴史学的研究 増田知之(京都大学) 1,300千円

若手研究(B) 継続(平成22) 楚簡による戦国文字資料の再検討―「伝抄古文」と「古璽」を中心に― 山元宣宏(宮崎大学) 1,040千円

若手研究(B) 新規 未調査仮名自筆資料の分析による文字・表記意識の通時的研究 家入博徳(国学院大学) 1,500千円

若手研究(B) 新規 近世禁裏文化圏内における入木道伝授の形成と伝授内容の推移に関する研究 中村健太郎(国文学研究資料館) 780千円

特別研究員奨励費 継続(平成22) 奈良朝文書の書体選択と中国受容―国家珍宝帳を中心として― 川上貴子(九州大学) 600千円

特別研究員奨励費 新規 近衛家熙を中心とする近世入木道(「書道」)及び和歌文学の研究 緑川明憲(慶應義塾大学) 800千円

第12期役員選挙について(選挙管理委員会)

本学会選挙管理委員会は、第11期役員任期満了にともない、選挙管理規定に基づいて平成24年3月5日を投票締切日と定め、郵送による第12期役員選挙を実施しました。

開票は投票締切翌日の3月6日、杉浦妙子選挙管理委員長以下、選挙管理委員により、学会本部において実施されました。投票状況については、有効投票数62票、白票3票でした。有効投票数62票の開票結果を受け、同規程第6条によつて、以下の通り選挙選出理事10名、監事2名を当選者として確定しました。

なお、選挙選出当選理事の福田哲之氏が辞退した結果、同得票数の高城弘一氏を繰り上げ当選としました。

〈選挙選出理事〉

- 大橋修一、萱のり子、河内利治、
- 澤田雅弘、鈴木晴彦、高城弘一、
- 富田 淳、中村伸夫、森岡 隆、
- 横田恭三(以上五十音順)
- 〈監 事〉
- 杉浦妙子、名児耶明(以上五十音順)

◆第12期役員会発足と役員一覧

第12期役員選挙の開票・当選者決定をうけ、3月20日に選挙選出理事による緊急会議を開催し、理事長の互選と理事長指名理事10名を選出しました。これに続き4月22日に開催された第53回臨時理事会において、各事業部局の分掌（諮問委員を含む）を以下の通り決定し、第12期役員会が発足しました。今期役員会の任期は、平成24年4月1日から平成26年3月31日までです。（※は新任）

【理事長】

大橋修一（埼玉大学教授）

【副理事長】

澤田雅弘（大東文化大学教授）研究局局長

中村伸夫（筑波大学教授）編集局長

【常任理事】

萱のり子（大阪教育大学教授）副国内局長

河内利治（大東文化大学教授）国際局長

鈴木晴彦（日本大学教授）事務局局長

※高城弘一（大東文化大学教授）会報委員長

富田 淳（東京国立博物館文化財部）副国内局長

森岡 隆（筑波大学教授）学術局長

横田恭三（跡見学園女子大学教授）国内局長

【理事】

大野修作（元京都女子大学教授）副国内局長

柿木原くみ（相模女子大学准教授）副事務局局長

笠嶋忠幸（出光美術館学芸課長代理）副国内局長

下野健児（花園大学教授）副国内局長

鶴田一雄（新潟大学教授）副研究局長

※永由徳夫（群馬大学准教授）副研究局長

※鍋島稲子（書道博物館主任研究員）副編集局長

信廣友江（安田女子大学教授）副事務局局長

福田哲之（島根大学教授）副学術局長

弓野隆之（大阪市立美術館主任学芸員）副国内局長

【監事】

杉浦妙子（二松学舎大学講師）

名児耶明（五島美術館学芸部長）

【幹事】

国際局…※荒金治 小川博章 ※藤森大雅

国内局…石井健 谷口邦彦

学術局…※尾川明徳 橋本貴朗 矢野千載

編集局…下田章平

事務局…※金子馨 六人部克典

研究局…鎌田美里 高橋利郎

選管委…杉浦妙子 柿木原くみ 鈴木晴彦

高城弘一 亀田絵理香 山本まり子

【諮問委員】

赤尾栄慶 安達直哉 荒金信治 魚住和晃

大川寿美子 ※小川靖彦 押木秀樹 河野隆

岸田知子 神野雄二 ※高木厚人 玉澤友基

辻井義昭 長野秀章 萩信雄 平形精一

増田孝 松本仁志 宮澤正明 森常雄 宮崎洋一

◆事務局移転にともなうお願い

すでに昨年の総会やチラシ等でお知らせしたとおり、新年度より事務局が東京・渋谷の美術新聞社内から、東京・杉並の大学生協学会支援センターへ全面移管いたしました。これにともなう、今後は会費収納や会員台帳管理等の事務万般が新事務局にて機能いたします。

つきましては、今後、会員各位からのご照会やご相談等は、以下の新事務局へお問い合わせください。よろしくお願いいたします。

＜新事務局の連絡先＞

〒166-8532

東京都杉並区和田3-30-22

大学生協学会支援センター内

書学書道史学会事務局

担当…井手富士雄・橋本潔

Tel: 03-5307-1117

Fax: 03-5307-1196

E-mail: shogaku@univcoop.or.jp

※電話での応答は「大学生協学会支援センターです」となります。

◆学生会員の「会員手続き」について

学会では、学生会員の「有期会員制」を導入しています。この制度は、学生会員（学生会費適用の方）が大学院を修了し、あるいは満期退学・自主退学、その他の理由により学籍を失った時（学割証の発給対象でなくなった時）に、一旦「学生会員資格終了」とするものです。該当の方が引き続き学会会員として留まろうとする場合には、必ず「会員手続き」が必要です。

この「会員手続き」用紙は、学会ホームページからダウンロードしてご利用下さい。この「会員手続き」は届け出事項のため、書類提出のみで、学生会員資格の終了時点から自動的に一般会員資格が付与されます。したがって、今春に学生会員資格を失った方は、至急手続きをお願いします。なお、書類送付先は「大学生協学会支援センター内 書学書道史学会」宛へお願いします。

◆本年度分年会費の納入について

本号に年会費をご納入いただくための郵便振替用紙を同封しました。

ただし、平成24年3月現在、満3年分以上会費を滞納している方には、「●会費至急納入願」と記載のある振替用紙を同封しています。この用紙同封の方は、必ず6月30日までに全額をご納入下さい。ご納入がない場合は、すでに導入されています「長期会費滞納者の自動退会（除籍）制」の適用対象となります。

また、会費滞納による除籍会員に対する学会の会費請求権は消滅せず、会員台帳別表にて管理の上、適宜納入要請を続けることが総会決定されていますので、ご了承ください。

〈硬筆の線〉尾川明穂

新任地の安田女子大学では、硬筆の授業のほか、全学対象「硬筆書写講座」の運営に携わる機会を得ました。後者は、社会生活で今なお硬筆が不可欠であることから、本年度より新設されたものです。私はこれまで硬筆に注意してこなかったため、慌てて勉強しておしている状況です。

勉強を始めて疑問に思うようになったのが、硬筆による毛筆の線の再現についてです。鄧散木は、まるで筆で書いたかのような硬筆の作品を遺しており、また、現在の書写教科書においても起筆・収筆の形状を中心に意が払われています。用具の特性から必ずしもそうしなくてよい気もしますが、毛筆の線以外に造形のよりどころがないことによるのでしようか。歴史的に見て、その考え方や再現の度合に変化があったのか、既往の論考によりつつ勉強を進めていきたいと考えています。

〈小松先生への追想〉金子 肇

古筆学の権威、小松茂美先生が平成二十二年五月に亡くなられ、早くも三回忌を迎えました(享年八十五歳)。小松先生の許で勉強させていただいた時間は短かったものの、多くのことを学ばせていただきました。

時折、先生は情報の詰まった頭を休めるために、仕事中に少し居眠りをされておりました。しかし、しばらくすると、何事もなかったかのように目覚められ、すぐさま机に向かって筆を執っておられました。そのお姿は、鬼気迫るものがあり、とりわけ強く印象に残っています。

第一線で活躍する研究者の姿勢や情熱を目の当たりにすることが出来たのは、自分にとって大きな経験となり、財産ともなっています。また、先生の「書を研究する者は、書く字も美しくなければならぬ」との言葉が耳に残っています。書く字に古筆の匂いを感じる、そんな研究者となれる

ように日々精進していきたいと思えます。

〈韓国古代文字展を鑑賞して〉金 貴粉

昨春秋、韓国国立中央博物館で「文字、その後―韓国古代文字展」が開催された。本展は、同館と日本の国立歴史民俗博物館との間で進められてきた共同研究の成果であり、資料も五百点余りが一堂に会され、韓国における古代文字資料の展覧会としては過去最大規模のものとなった。

会場では中国の文字資料や日本の多賀城碑や多胡碑のレプリカ、正倉院資料も展示され、漢字文化圏の三国における文字の受容と伝播がいかになされてきたのか、その実態に迫る興味深い内容であった。残念ながら書風の変遷など、書の観点からの言及は乏しかった。近年韓国では木簡などの文字資料の発見が相次いでいる。日本古代史だけではなく、日本の書を考察する上でも大いに注目すべき事項であろう。

〈眼福至極の一年〉佐々木佑記

二〇一二年は、蔡襄(一〇二一―一〇六七)の生誕一〇〇〇年にあたります。これを記念して、勤務先である台東区立書道博物館では、秋期に東京国立博物館との連携展「尚意競艶―宋時代の書―」を開催予定です。

中国書法関連の展示では、夏より「橋本コレクション」中国書画(大阪市立美術館)、「青山杉雨の眼と書」(東京国立博物館)、明春には「書聖王羲之」(東京国立博物館)が予定されています。

日本の書に視野を転じてみても、本年は「古筆手鑑」(東京・出光美術館)での「見努世友」・「藻塩草」の同時展示をはじめ、国宝指定の古筆手鑑四件が各地で展示されました。秋には、特別展「宸翰天皇の書」(京都国立博物館)もひかえ、書の展示が目白押し。眼福至極たる一年となりそうです。

新入会員紹介

〈一般会員〉

- 内田誠一(1988生) 大学准教授
 - 絹川 敦(1972生) 専門学校講師
 - 南條佳代(1965生) 大学特別研究員
 - 浜野真由美(1965生) 高校教諭
(学生会員)
 - 岡 直樹(1988生) 筑波大学院
 - 町田智聖(1988生) 大阪教育大学院
- ※平成23年11月〜24年4月申請・承認された方

編集 後記

◆今期より会報委員長を拝命しました。個人的な不手際により、このように発行が遅れてしまい、まことに申し訳なく存じます。心よりお詫び申し上げます。鈴木晴彦事務局長の下、学会の情報を発信してまいります。忌憚のないご意見、情報をお寄せくださいますよう、お願い申し上げます。件名には、最低限「書学書道史学会」とお入れの上、chikhot@itv.com(高城メールアドレス)にお送りくださいませ。(高城弘一)

◆昨期に引き続き、本誌編集のお手伝いをさせていただきましたことになりました。どうぞ宜しくお願い致します。新体制となった早々に足を引つ張らぬようにと、担当の「科研」採択課題の調査においては慎重を期しました。とは言うものの、校了後も誤植や記載漏れはないか気がかりになることしばしば。(六人部克典)

◆数行の空きスペースがあるので、日頃のボヤキを吐かせていただきたい。が、そこはぐっとこらえて我慢する。が、この「我慢」を広辞苑で引くと、「自分をえらく思い、他を軽んずること」と出ている。つまり、我慢は傲慢の意味なのか。であれば、自分の我慢に我慢がならない。何ともやるせない今日この頃である。(は)